

# 鳥取城を歩く —山上ノ丸編—

さん じょう の まる

久松山の山頂にあたる山上ノ丸は、山城としての高い防御性と眺めの良さを兼ね揃えた戦国時代から江戸時代初めの姿を今に伝えていません。険しい山登りの末、頂に立てば「日本にかくれなき名山」と称された理由が実感できます。眼下には鳥取平野の他、日本海にそって鳥取砂丘や遠く中国地方最高峰の大山も望むことができます。また、東には兵糧攻めの際に、秀吉が本陣を構えた本陣山を、鳥取城を守った吉川経家が見た山の姿のまま、今も望むことができます。



天守跡から望む日本海



本丸から望む鳥取平野



本丸から望む本陣山



鳥取県立博物館蔵

## 江戸時代の山上ノ丸の姿

落雷によって焼失するまで、本丸には天守がそびえていました。宮部時代の三階建のものを池田長吉が二階建てに改築したと言われています。天守の屋根は、茶色で描かれているため柿(こけら)葺であったと考えられています。

## 1 車井戸

池田長吉の時代に3年の歳月をかけて掘られたと言われます。



## 2 天守台

1辺が約10間(約20m)と城内最大の櫓台です。中央には、穴蔵という貯蔵庫がありました。南東側に付櫓(つけやぐら)があり往時はここから天守に出入りしたと考えられます。



## 3 東坂の上城門

斜面を遮る登石垣が付属しており、倭城(わじょう)(文禄・慶長の役に際して日本軍が朝鮮半島の南部各地に築いた日本式の城)との関連性が指摘されています。



## 4 十神砦(外神砦)

戦国時代には山中鹿之助(やまなかしかのすけ)、関ヶ原合戦時には亀井茲矩(かめいこれのり)の軍勢を退けたと伝わっています。中央の門は3東坂の上城門と同じく登石垣や石塁で守られています。砦の突端には巨岩があり、江戸時代にはその前に神社がありました。

